



大学院自然科学研究科

教授 **渡邊アツミ**さん

Watanabe Atsumi

●プロフィール

- 1966年 熊本県立第一高校卒業
- 1970年 熊本大学理学部卒業
- 1974年 理学部助手としてスタート
- 1985年 教養部助教授
- 1997年 理学部助教授
- 2003年 理学部教授
- 2006年 大学院自然科学研究科教授

数学研究は発見の喜びと感動の連続です。

何となく数学の勉強がしたくて

代数学の研究で知られる渡邊さんは、もの静かな印象でした。ひとつひとつ言葉を選びながら、丁寧に話されます。

「小学校のころは、とくに算数が好きだったわけではありません。中学校から数学に関心を持つようになりました。」

第一高校から熊本大学理学部数学科へ入学。ちょうど70年安保の学生運動が熊本大学でもさかんでした。「自分も何か新しいものを発見したい。それを論文にまとめて、誰かに評価してもらおう時の喜び。そういうことの積み重ねとして現在があるのです。」

大学院修了後10年くらいたって、論文と言えるようなものが書けました。そのころから他の大学の専門家とも交流するようになりました。

数式の中にある思いがけないドラマ

数年前、「博士の愛した数式」という映画が話題を集めました。数字は無機的なものではなく、数の中に思いがけない法則やドラマがあり、渡邊さんはそんな数学の愉しさに魅了されたのです。「家事労働を負担に感じることもなく、自宅でもかなりの時間を研究に費やすことが出来ました。ただ、大学での勤務が終わった後は、家に帰り、ふつうの会社員のひととあまり変わらない生活をしています。テレビを見るとか、本を読むとか。いつも数学のことばかり考えているわけではありません。」

国内外の学会で知り合った研究者とメールで情報を交換することもあり、そんな時間も心なごむひとときです。

理学の基礎理論としての研究

私は有限群の表現論を研究しています。群は数学における最も基本的な概念の一つで、数の足し算や、行列のかけ算のように、二つの要素の間に演算が定義された集合です。群は数学だけでなく物理学や工学でも用いられます。これまで5名の修士の学生の指導をしましたが、卒業生の中には学位を取得し研究を続けている人がいます。

研究は授業の準備など教育の仕事や、委員会の仕事などの合間、又は自宅で行っています。未解決の問題に取り組む、新しい定理を見つけるなどの研究を行います。全く見当はずれのことを何日も考え続けていたり、出来たと思ったことに勘違いがあったりと、うまく行かないことの方が多いのですが、懲りずに日を置いて挑戦したりします。

これから数学の研究者を目指す人へは「数学の研究者を目指すなら、（ほかの研究もそうですが）英語も普通に出来ないといけません。論文は英語で書きますから。未知の世界を探求するのは、研究者ならではの醍醐味ですね。」



研究室で